

## 全教定通部 中国・四国・九州ブロック2015学習交流集会

- ・日程 2015年10月31日(土)～11月1日(日)
- ・会場 香川県仲多度郡琴平町 こんびら温泉湯元八千代
- ・参加者 22名(岡山1名、山口1名、長崎2名、香川18名)
- ・本県参加者 濱本 功二(佐世保中央夜間)、烏山 隆弘(鳴滝夜間)

10月31日(土)	
14:15～	開会行事 実行委員長あいさつ 香川高教組委員長あいさつ
14:30～17:00	実践報告「定通教育における問題提起」 報告者：香川県立多度津高校定時制教諭 入江 彰一 さん 経験交流・意見交換
18:30～	夕食交流会
11月1日(日)	
9:00～10:20	講演①「教育の場のソーシャルワーク ～スクールソーシャルワークの意義と役割～」 講師：四国学院大学教授 富島 喜揮 さん
10:40～12:00	講演②「脳が壊れてもその人の知性の働きに耳を傾けるべきです」 講師：医師(高次脳機能障害者) 山田 規敏子 さん
12:00～	閉会行事

## 1 実践報告「定通教育における問題提起」

報告者：香川県立多度津高校定時制教諭 入江 彰一 さん

夜間定時制勤務14年目の入江さん。定時制で学ぶ生徒の①学校環境、②家庭環境、③友人環境、④職場環境等の諸問題について報告と問題提起。

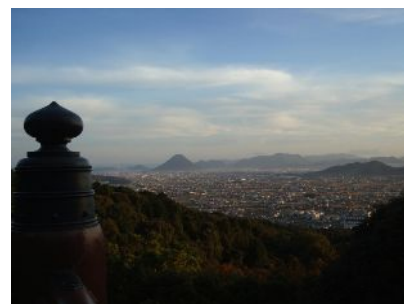
着任式で生徒が動き回る、授業中弁当を食べる、教室に平気でゴミを捨てる、定期考査で複数の生徒がカンニングをする等、入江さんを中心に職員集団として取り組んだ結果、改善が見られた実業高校での経験も交えての報告。内容は次のとおりです。



金刀比羅宮 御本宮

## (1) 学校環境

- 1) 制度 ①休学の取り扱い（出席や欠課の取り扱い）  
②帰国子女への対応（保護者が日本語を十分に理解できない）  
③単位制かつ学年制高校の問題点  
④2次募集（定員内不合格、選抜委員）  
⑤定期考査における欠課の取り扱い
- 2) 学習 ①教室環境の整備  
②学力格差を補うプリントを活用  
③定期考査の裏面に適性検査（意欲点として加点）  
④学習意欲がない生徒のツボ刺激（体の凝りをほぐす）
- 3) 生活 ①登校時に校門であいさつ  
②ゴミを拾う（続けていると生徒の中から協力者が現れる）  
③学級役員は本人の納得と周囲の協力の確認で決定  
④学級文庫（読ませたい本をただ置くだけでよい）



金刀比羅宮御本宮から望む讃岐平野

## (2) 家庭環境

- 1) 学習 ①本が家庭にない（幼少時の読み聞かせに不安）  
②勉強部屋がない
- 2) 生活 ①アルバイト代を要求する親（無茶苦茶な親でも、生徒にとっては親）  
②アルバイトを掛け持ちしている生徒  
③1人暮らしの生徒  
④複雑な家庭環境で、目標無く生活する生徒  
⑤年齢相応の経験をしていない生徒（電車に乗れない）

## (3) 友人環境

- ①互いに家庭環境が似ている状況で、価値観を広げようとする意欲に欠ける。

## (4) 職場環境

- ①上司に不満を訴えることができず、常にストレスを抱えている。

## (5) 特別な支援が必要な生徒

- 1) 学力支援
- 2) 発達障害
- 3) ケータイ依存
- 4) ブラックバイト

問題提起（1）～（4）の他に、意見交流会の場で（5）が追加され、各県の情報交換は加速しました。

岡山県真備陵南高校からは、高校入試合格通知を中学校へ渡す時に個別支援計画を引き継ぐという中高連携の取り組みを紹介。また、学校設定科目を週3時間実施。（「漢字」「数学」「生活」各1時間）多くの生徒が「要」・「不要」に敏感で、実学を求める傾向が強く、効果を上げていること等、報告されました。

本県は、佐世保中央高校夜間部からの習熟度別授業（英語・数学）の実践等を報告しました。



経験交流・意見交換会

## 2 講演①「教育の場のソーシャルワーク ～スクールソーシャルワークの意義と役割～」

講師：四国学院大学社会福祉学部教授 富島 喜揮 さん

精神保健福祉士として国立療養所賀茂病院（現・賀茂精神医療センター）で勤務時に、日本精神保健福祉士協会理事・常任理事を歴任。2004年から四国学院大学勤務。現在、社会福祉学部長補佐、人権と文化の多様性に関する委員会委員長。05年より香川県教育委員会SSWとして高校に勤務。著書に『スクールソーシャルワーク養成テキスト』（中央法規出版、08共著）『よくわかるスクールソーシャルワーク』（ミネルヴァ書房、12共著）他、スクールソーシャルワーク関連著書多数。



講演① 富島 喜揮さん

### (1) 子どもを取り巻く環境

#### 1) 学校が抱える問題や課題

①学級崩壊 ②虐待 ③学校の対応枠を超える生活問題 ④過重労働による教師の疲弊 等

#### 2) 子どもが抱える問題や課題

①いじめ ②不登校 ③暴力行為 ④児童虐待 等

#### 3) 家庭や地域が抱える問題や課題

①核家族化や離婚による養育力低下 ②コミュニティの教育力低下

### (2) SSWの職務内容

1) 学校生活（修学、経済、社会生活等）を円滑に営むための援助・支援

2) 精神的、社会生活面の問題や課題解決のための援助・支援

3) ハラスメントに対する権利擁護

4) 教師に対する助言と指導

5) ケース会議開催

6) 学内、学外関係機関との連絡調整

### (3) 実践事例①

1) 学習・進路支援……親が勧めた高校に不本意入学。担任と家庭訪問。本人希望の学校へ転校。

2) 人間関係支援……学級内いじめ。グループの友達と対策を考え、孤立感払拭。いじめ解決。

3) 精神疾患支援……長欠生徒を精神科につなぐ。服薬効果で登校し、卒業。

4) ネットワーキング…家族問題に介入。関係機関（福祉事務所、保健所、町役場等）との会議。

### (4) 実践事例②（GOS-net）

2つの高校を抱える香川県の小豆島で、地域の子どもが安心して健やかに育つことを目的に、地域の関係機関が連携してきめ細やかな対応を行う「小豆地区の子どもの健康と教育を支える連絡会」（GOS-net：Green Olive Support Network）を発足。今年度4回目の連絡会出席者は、以下のとおり。

1	保健所	保健福祉課（課長、精神保健福祉相談員、母子自立支援員、家庭女性相談員、保健師）
2	町	土庄町健康増進課（保健師）、土庄町民生委員児童委員協議会（会長） 小豆島町健康づくり福祉課（保健師）、小豆島町民生委員児童委員会協議会（会長） 小豆総合事務所生活福祉課（課長、教育支援員）
3	教育機関	小豆島高校（全日制教頭、支援担当、定時制教頭、支援担当） 土庄高校（教頭、教育相談担当）、土庄町教育委員会（課長補佐）
4	社会福祉協議会	小豆島町社会福祉協議会（事務局長）

### (5) 課題

1) 不安定な雇用形態（非常勤雇用契約が前提、賃金）

2) 専門職以外のSSW（自治体の意向や財政事情に差。愛媛県はSSW 20名中19名が元教員）

### 3 講演②「脳が壊れてもその人の知性の働きに耳を傾けるべきです」

講師： 医師(高次脳機能障害者) 山田 規畝子 さん



講演② 山田 規畝子さん

東京女子医科大卒。大学6年時脳出血、大学卒業後、整形外科医として同大付属病院、香川医科大(現・香川大学医学部)に勤務し、実家の高松市の整形外科病院院長就任時33歳で2度目の脳出血。脳梗塞を併発し、高次脳機能障害を発症。リハビリ医を目指し、愛媛県伊予病院勤務。37歳で3度目の脳出血。半側空間無視等、新たな後遺症が加わるが、姉が運営する老人保健施設施設長として社会復帰。05年より医師休業し、帰郷。

自分の症状やリハビリ法をまとめた『壊れた脳 生存する知』(04、講談社)他、関連著書多数。

山田さんの高次脳機能障害には記憶障害、注意障害、空間認識障害、感情コントロール障害等の症状があるため、日常生活も難しい状況です。外見では障害者だと判断されにくい一層ご苦勞も多いそうです。ただ、苦しい状態から脱出するために必要なことは、壊れた脳がその人の終着点ではなく、止むに止まれぬ出発点であると考えてくれる人が周囲にいることだと説明。山田さんを囲む家族の絆、特に宇宙探査機製造の夢を抱く大学生の息子さんとの絆の強さを感じました。「子どもが支え、いてくれて本当によかった」「私のもとに生まれてきてくれてありがとう」の言葉が印象的でした。

山田さんは言語機能も後遺症が残っているため、講演は主にビデオ(TBS「ニュース23」の特集)とレジメをもとに進み、最後に質疑応答という形態でした。学習障害等で生きづらい人生を送っている子どもたちに寄り添って、どうか同じ目線でいてほしいと講演を結ばれました。

### 参加者の感想

#### 濱本 功二 (佐世保中央夜間)

定通部の中四九ブロック学習交流集會に参加しました。今回は学校行事と重なり、2人の参加でした。医師であり高次脳機能障害者の山田規畝子さんの講演が特に印象に残りました。今まで知らなかった高次脳機能障害についてわかりやすい資料を準備していただきました。SSWの富島喜揮さんの講演では、小豆島での高校と行政機関との連携についての実践報告でした。「子どもたちを島全体で育てる」という考え方に共感しました。多度津高校定時制教諭の入江彰一さんの実践報告は、生徒に対しての様々なアプローチの仕方が紹介されていて大変参考になりました。

今年は長崎県から2人の参加でしたが、来年は多くの方の参加をお願いしたいと思います。琴平町は懐かしい雰囲気が残った美しい町でした。

#### 烏山 隆弘 (鳴滝夜間)

講師の山田さんが自由が利かない状態で、絞り出すように発する言葉を聴いていると、言葉とはこれほどまでに重みを持つのかと痛感した講演でした。「自分がやっていることが人の役に立っていると実感できることが今の喜びです」と話される彼女の瞳は、未来を見つめているように見えました。



本県からの参加者